

令和2年度第2回 横須賀市学校給食運営審議会 会議録

開催日時 令和2年(2020年)12月11日(金)15時30分~16時20分

開催場所 横須賀市消防庁舎 3階 消防第2会議室

出席者

(委員)

大津中学校保護者	赤羽根 丈行	鴨居小学校教諭	東 健志
大楠小学校栄養教諭	金井 康子	汐入小学校学校給食調理員	河合 泉
逸見小学校栄養教諭	黒田 真由美	田浦中学校保護者	桜井 健
神奈川県立保健福祉大学教授	鈴木 志保子	追浜中学校校長	前島 光
田戸小学校学校給食調理員	八木橋 由佳		

(事務局)

学校教育部長	米持 正伸	学校給食担当課長	坂本 克昭
保健体育課主査	望月 由美子	保健体育課主査	木村 生子
保健体育課係長	森 雅敬	保健体育課主任	佐野 史彦

欠席者

(委員)

保健所生活衛生課長	石川 智美	栗田小学校校長	金子 美夕貴
公郷小学校教諭	川上 倫世		

1 開会

【事務局】

- ・定足数(委員の半数以上の出席)の確認 12名中9名出席
- ・傍聴者数の報告 傍聴者なし

2 あいさつ

【事務局】

それでは定刻となりましたので、横須賀市学校給食運営審議会令和2年度第2回会議を開会いたします。

まず、机の上に置かせていただきました、本日の資料について確認をさせていただきます。

1枚目に、「本日の次第」、2枚目に「委員名簿」、3枚目に、「第1回運営審議会の議事概要」、4枚目に、「中学校完全給食実施における課題解決策について」、5枚目に、「中学校給食費の徴収方法について」、こちらは表裏の両面となります。以上となりますが、不足し

ている資料はございませんでしょうか。

なお、栗田小学校校長の金子委員、公郷小学校教諭の川上委員、保健所生活衛生課の石川委員については、公務により本日は欠席となりますが、事前に委員へ資料説明をさせていただき、ご意見をいただいておりますので、それぞれ議題の質疑の際に、適宜ご報告させていただきます。

議題に入る前に、第1回運営審議会から時間が空きましたので、前回の議事概要について確認をしたいと思います。

資料1「第1回運営審議会の議事概要」をご覧ください。

なお、この資料は、会議録から抜粋して作成させていただきました。

まず、1小学校給食費については、小学校給食費の改定の要否については、平成30年度の改定前と比べて栄養価が高まっており、残食については、栄養教諭を中心に組み込んでいただくこととし、今回は小学校給食費の改定は必要なしとの結論になりました。

次に、2中学校完全給食費については、事務局の提案する給食費案については、栄養価を考えると概ね妥当である。

学校給食は、児童生徒に必要な栄養が摂取できるよう基準が定められており、それらを満たすため、家庭の食事や外食と比べてうす味であったり、食べ慣れない食材が提供されたりする。小学校給食から、すぐに中学校給食へ移行すれば、「給食の味」に慣れているが、中学校2、3年生は間隔が空いてしまうため、給食開始直後は、生徒が違和感を覚える可能性がある。

上記の課題については、給食開始前に、生徒や保護者の学校給食への理解を深めることが重要だと思われる。第2回運営審議会において、事務局から解決策を提案していただきたい。

以上のようなご意見をいただきました。このような内容でお間違いないでしょうか。

それでは2の議題に入ります。

2 議題

【事務局】

この運営審議会は、「横須賀市学校給食運営審議会規則第3条第2項」の規定に基づき、鈴木委員長が議長となりますので、以後の進行は議長よりお願いいたします。

【議長】（鈴木委員長）

皆様お久しぶりです。私からコロナ関連の情報提供ですが、栄養状態が良ければ感染症の予防効果が高まります。しっかりと栄養素が揃ったうえで、乳酸菌などを摂れば、免疫機能を維持する能力が体の中で高まります。

もう一つ、小・中学校で注意しなければならないのは、運動強度が高いと、運動中は免疫機能は高まりますが、高い運動強度であるほど、運動後2時間以上、安静の状態よりも、NK（ナチュラルキラー細胞）活性という、ウィルスや細菌などを攻撃してくれる物質の量が安静時よりも大きく下がります。運動強度が高いほど下がる量が多くなるため、運動後にクラスターが起りやすいのです。

まだ、この情報は十分浸透していませんが、ぜひとも小中学校では、運動後に注意をしていただきたいと思います。実は、健康になることと、免疫機能を維持することは逆行しています。免疫機能の維持が目的であれば、歩く程度以上の運動はしない方がよいのです。健康を維持したいのであれば、運動強度が高いほうがよい。私たちは、難しい選択を迫られた生活をしなければなりません。運動後、すぐにマスクをして、手洗いうがいをして、人と接触しないで、すぐに家に帰る。そういうルールを共有してほしいと思います。

前置きが長くなりましたが、はじめに、事務局から第1回会議で出た課題への解決案について報告をお願いします。

【事務局】

前回の会議の中で提案がありました、課題解決案について、ご報告します。

資料2「中学校完全給食実施における課題解決策について」をご覧ください。

1 想定される課題について、

現在、中学校完全給食開始に向けて、文部科学省学校給食摂取基準により、中学生の成長に必要な栄養量を満たしたものとなるよう献立作成していますが、カルシウム、鉄、食物繊維などを満たすためには、豆類、切り干し大根など乾物類を多く提供する必要があります。また、食塩の摂取基準は低く抑えられており、できる限り基準に合わせた塩分量となるよう減塩をすすめています。

中学校給食は、小学校に比べて提供量が多く、生徒が食べ慣れない食材を多く使用することになり、家庭の食事や外食に比べ薄味となります。生徒は小学校での給食経験はあるものの、特に上級生になるに従って、家庭から持参していた弁当との差を感じるのではないかと考えられます。また、現在のミルク給食においては、牛乳を飲まない生徒の割合が6～7パーセントであり、小学校の0.2～0.3パーセントに比べると、かなり高い状況です。

これらのことから、第1回学校給食運営審議会において、「食べ慣れない食品が多く使用されること」「味が薄いこと」等に対し、生徒から様々な不満が出たり、大量の残菜が出たりすることとなり、「中学校給食はおいしくない」「給食センターの給食はおいしくない」等、悪いイメージになることが危惧されました。

2 想定される生徒の声として、「好きなものを食べたい」「嫌いなものが出る」「味が薄い」「牛乳を飲みたくない」「量が多すぎる」「身支度が面倒」等が予想されます。

3 これらの課題の解決策として、完全給食実施や成長期の栄養摂取について理解を促す、

生徒向け資料を作成します。

(1) 作成予定の資料一つ目は、ガイダンス用パワーポイントです。学年集会や学級指導の際に学級担任が使用できる資料として、「小学校給食との違い」「身支度」「配膳や片付けのしかた」などの内容を写真や図入りで分かりやすく説明できるようにします。生徒が主な対象ですが、一緒に聞いている教職員の理解も目指して作成します。

資料の二つ目は給食だよりです。中学生に必要な栄養、現在の食生活の課題、給食で提供される食材や味付けなどへの理解を促す内容とし、横須賀市食教育研究会 栄養指導研究部の協力で生徒に読みやすい漫画の形式で作成する予定です。漫画のお便りは給食開始前の準備期間に発行します。給食開始後は、その時々々の給食や健康づくりに役立つお知らせとしての給食だよりを継続発行する予定でいます。主な読み手は生徒ですが、持ち帰って保護者にも見てもらうことを想定して作成します。以上です。

【議長】(鈴木委員長)

前は、給食が開始されると、おそらく味が薄いなどの声が生徒からあがってくるだろうと。横須賀の給食が不味いというイメージがつくと、そのまま世間にも広まってしまう可能性もある。そうならないように、あらかじめ想定されることを考えて、実行したうえで、9月を迎えたいというお話でした。

ただし、答申の中には、具体的な内容を記載する必要はないので、委員の皆様には、取り組みの事例をお伝えし、ご理解いただいたうえで、答申を行いたいということで、事務局と私で調整してまいりました。

まずは、想定される生徒の違和感等は、資料のとおりでよろしいか、あるいは他にも調べ方があるのではないかなど、疑問やご意見があれば、ご発言いただきたいと思います。また、具体案について、他にも提案があれば伺いたいと思います。

【東委員】

私は小学校の教員で、5年生の担任をしております。今の6年生は、中学入学後、7月まではお弁当ですが、9月から完全給食になります。現5年生は、再来年の入学当初から完全給食になります。彼らが、どのような気持ちでいるのか、5、6年生の全134人に聞いてみました。すると、お弁当が楽しみな生徒が85%、給食が楽しみな生徒が15%でした。中学校が給食になるということに喜びを感じている児童が少なく、自分も少し焦りを感じています。

【議長】(鈴木委員長)

東委員は、児童から理由を聞いていますか。

【東委員】

聞いています。味付けがどうしても家と違うことや、嫌いな食べ物が出ること、食べきれない量であることだそうです。今は、給食を残しても良いのですが、やはり周りの目を気にしてプレッシャーを感じてしまっているようです。

【議長】（鈴木委員長）

小学校の高学年は、身長を伸ばすために多少無理しても食べたほうがよいと思います。みんなが給食を残さず食べれば、5年後ぐらいに、横須賀市の平均身長が県の平均身長より1 cm か2 cm 高くなっているかもしれません。逆に、好き勝手に食べていると、身長が伸びなくなる可能性があり、それは遺伝以外の要素として影響が大きいと思います。そうした点からも、ぜひ先生には生徒に給食を残さないよう説得していただきたい。

【東委員】

しっかり指導していきたいと思います。

【前島委員】

私も、数年前に中学校で同様のアンケートをとった時に、やはりお弁当の方が良いという意見が8割か9割ぐらいで圧倒的に多かったと思います。

完全給食をきっかけに、給食の必要性を学習したり、食について考えていくことが大事だと思います。小学校の高学年以上の児童生徒であれば、意味を理解できるので、納得すれば、生徒はがんばろうと思うのではないのでしょうか。ただ、給食に悪いイメージを抱いてしまっている生徒がいれば、それは慎重に対応していきたいと思います。

【桜井委員】

保護者は、給食になればお弁当を作る負担などが軽減されるので、支持している方が多いのだと思います。15%という数字は、今の給食に満足していないということだと思うので、生徒には、給食の良いところをアピールしないとイケないと思います。先ほどの身長の話も、ぜひ子ども達に伝えるべきだと思います。

【議長】（鈴木委員長）

栄養教諭の委員の皆様は、今のお話を伺っていかがですか。

【金井委員】

低学年の児童ほど、調理員さんが一生懸命作ってくれているという思いを素直に受け止めやすいので、がんばって食べようという思いが強いかもしれません。でも高学年の方

がよく食べている気がしたので、そんなにお弁当を楽しみにしていたとは思いませんでした。

【黒田委員】

なかなか難しいなと思いました。ただ、地域性や子どもが抱えている背景にもよります。給食の迎え方が、前任校と今の担当校の児童では異なると感じました。今の担当校は、小規模校だからというのもあると思いますが、とてもよく食べています。6年生は、前向きに静かに食べることが当たり前のように身につけていて、校内で一番静かにしっかり食べているのが6年生です。今の6年生は、来年から完全給食が始まるのですが、今年のように、素早く配膳して集中して食べるということが身につけていれば、9月の完全給食にもしっかり対応できるかなと思います。子ども達に実際に聞くと、給食を楽しみにしているのは15%程度なのかもしれませんが、給食に対して悪いイメージを持っているという印象はありませんでした。そして、小学校5、6年生に対する、これからの私たちの働きかけがとても大事だと思いました。

【議長】（鈴木委員長）

給食調理員の委員は、給食を作っている時に、給食のこういうところに、子どもたちが嫌だなと思っているのかなど思い当たりますか。

【八木橋委員】

塩分の摂取量を減らしたことによって、薄味というか、今までの給食からすると少し物足りないと感じるかもしれません。

【議長】（鈴木委員長）

私も、食物繊維の基準摂取量を、あの塩分の摂取基準量で味付けしようとするのは難しいことだと思います。

【八木橋委員】

私の甥も小学校6年生なので、夏休み明けから完全給食に変わることにについて質問したところ、甥の夢は、自分の好きなおかずだけが、ぎゅっと詰まったお弁当を食べることだと答えていました。

【議長】（鈴木委員長）

中学校の時は発育が大事なので、ぜひ給食をしっかり食べてほしいですね。そのために、昼食の意味を教育していく必要があると思います。河合委員は何か感じることはありますか。

【河合委員】

児童の食べ慣れない食材が多いのというのは感じています。若い世代の母親が作るお弁当と比較すると、これは何だろうという食材は多いかなと思います。今の担当校は小規模なので、給食に入っていたあれは何？これは家では食べたことがないよ、という話を児童から聞いていました。やはり家で食べ慣れていないというハードルは高いのかなと思います。栄養価を満たすため、どうしても給食に豆や乾物が増えています。子どもたちは一生懸命食べているし、残食の少ない学校だと思いますが、先生が積極的に声をかけて、避けていた豆を少し食べるなどの話はよく聞きます。また、児童が給食室の通りすがりに「いい匂いだから楽しみにしているね」と遠くから叫びながら通ってくれたりします。センター方式になると残念ながらそういうことはありませんが、自校式の場合、給食の匂いが香ってくる、揚げている匂いする、給食の予兆というか、今日は唐揚げだと思ったら魚だったという、逆に児童ががっかりすることもあるかもしれませんが、もうすぐ給食かなという期待感はずっとあるはずだと私は思っています。給食は、決して悪いところばかりではないということを、作っている立場としては、なんとかうまく伝えられたらと思います。

【議長】（鈴木委員長）

食べる前からワクワクさせることは大事なことですし、確かに、自分の知らないものが入っていたら嫌だなと思う気持ちも分かる気がします。予め、どう教育するかということが大切なのもかもしれません。教育の重要性が、ますます高まることが、八木橋委員や河合委員の話から分かりました。

【河合委員】

今は、小学校でせっかく給食を作っているのですが、この楽しみが中学校に行っても続くんだよということを伝えていきたいと思っています。

【議長】（鈴木委員長）

豆は、タンパク質が豊富で食物繊維もあり、エネルギーが低いということで、特に女性であれば知っておくと得をする食材だと思います。たくさんの豆料理や調理法を知ることが、将来とても役に立つのだということを教育することが必要かもしれません。

【桜井委員】

給食について、プラスのイメージを持ってもらわないといけないと思います。鈴木先生が先ほどおっしゃっていた、5年後に身長が県平均よりも伸びたという結果がもし出たしたら、公表することで、子どもたちにも給食の大事さが伝わると思います。

自分も、子どもの頃は給食がとても楽しみでした。給食を食べられるのも中学校までなので、その大切さを保護者にも認識してもらいたいと思います。

【議長】（鈴木委員長）

事務局には、答申を受けてから具体的な対策を考えてもらいたいと思いますが、今回資料で挙げていただいたのは、主に生徒向けに、どのように教育していくかという内容となっていますので、保護者や教職員向けの具体的な対策も検討する必要があります。小学校の教職員は日頃から給食を食べていますが、中学校の教職員は濃い味に慣れてしまっている可能性がありますので、味の薄さなど、生徒への教育効果が下がるような発言は慎んでいただくような申し送りをしてほしいと思います。

保護者にもぜひご協力いただいて、給食を盛り立てていかないと、保護者の要望があつて導入した中学校給食を辞めざるを得ないことになるかもしれません。そうならないように、答申後に、ぜひ今回の意見を参考に、具体的策を検討していただきたいと思います。

【議長】（鈴木委員長）

次に、中学校給食費の徴収方法について、報告をお願いします。

【事務局】

完全給食後の給食費の徴収方法について、報告させていただきます。

資料3「中学校給食費の徴収方法について」をご覧ください。

まず、令和4年度以降の徴収方法について、現行では、ミルク給食のみ月額700円であるため、年2回に分けて徴収していましたが、完全給食後は、月額が上がるため、小学校給食費と同様、8月を除く毎月徴収とします。ただし、3年生は、3月の登校日数が少ないため、3月は徴収しません。

なお、回数は1・2年生が180回、3年生が163回です。

納期限は、4、5月分のみ5月末日ですが、その他の月は、原則当月末日となります。

裏面をご覧ください。

2 令和3年度の徴収方法について、令和3年度は、ミルク給食と完全給食が併存するため、変則的な回数、金額となります。

令和3年度のみ、1・2年生は、ミルク給食52回、完全給食114回の計166回となります。なお、3年生は、完全給食の回数が98回となります。

納期限については、4月から7月までのミルク給食分は、前年度と同様、7月末日（令和3年は土曜日に当たるので、8月2日）に一括で徴収し、完全給食開始後の9月以降は、原則として毎月末徴収とします。

以上で報告を終わります。

【議長】（鈴木委員長）

今の事務局からの報告について、質問や意見はありますか。

（特に質問、意見なし）

本日の運営審議会ですが、答申案の確認まで行いたいと思います。

そのため事前に事務局と調整をして、第1回運営審議会での議論などを踏まえ、答申の素案を準備させていただきました。委員の皆様へ配付してください。

【議長】（鈴木委員長）

事務局から読み上げをお願いします。

【事務局】

（答申の素案読み上げ）

【議長】（鈴木委員長）

ありがとうございます。

答申の素案についてのご意見をお願いします。

【事務局】

本日欠席されている、川上委員から、ご意見を預かっておりますので、代読させていただきます。

現在の小学校の給食費で、やっと基準の栄養価に近づけることができるということでした。今後も学校給食として基準に近い栄養価を維持し、子どもたちの成長を支えることが重要だと考えます。中学校の給食についても、成長期であり、部活動等で活動量が増える生徒もいるということを考えると、必要な栄養が摂取できる学校給食を提供することは、ますます大事なことだと考えます。また、コロナ禍のなかで経済状況が苦しくなっているご家庭が増えていると推測しています。そういった背景のある児童・生徒にとって、成長に必要な栄養が摂れる手段として大きな役割を果たすことになると思います。ですから、学校給食では、子どもたちが必要な栄養を摂取できるようにしていくために、今回提案していただいた、給食費の金額は必要と考え、この答申案に賛成いたします。

【議長】（鈴木委員長）

川上先生からも賛成というご意見をいただきました。その他の委員については、石川委

員は急でしたが、金子委員も事前に了承をいただいています。皆様からご意見がなければ、これを答申として、私の方から教育長へ提出するという流れでよろしいでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございました。

来年度は審議会委員の改選が予定されていますので、今回の解決策がしっかりとられているかどうか、委員長の私と事務局が連絡をとりながら、確認作業をします。

なお、答申案について、本審議会後に、内容が変わらない程度の文言の微調整の必要が生じた場合には、委員長の私に一任していただき、事務局と調整させていただくことでよろしいでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。

以上で議事が終わりましたので、進行を事務局に戻します。

【事務局】

委員の皆様どうもありがとうございました。

なお、給食費決定までの今後の予定ですが事務局では答申の内容を踏まえ、年明けの横須賀市総合教育会議において、教育委員会と市長が協議し、方針を決定いたします。

その後、給食条例施行規則等の関連規則の公布を行うとともに、保護者への給食費の周知を行います。

そして、給食条例施行規則等の施行を経て、中学校完全給食を開始する予定です。

続きまして、今年度の運営審議会ですが、年度末に給食費の額以外で皆様に審議していただき、給食運営に関する重要な案件があればもう一度開催する可能性がございます。その際には委員の皆様にご改めにお知らせいたします。

以上で令和2年度第2回会議を終了いたします。

閉会